

第6回 検討会 議事骨子

開催日時・場所 平成19年12月7日(金) 13:00~16:00 和歌山県民文化会館 中会議室
出席者 委員12人(4人欠席)、河川管理者等5人、傍聴者1人

第6回検討会が開催され、流域への意見集「熊野川河川整備計画の策定に向けて」の内容の確認、タイトルの見直し、キャッチフレーズ、図表、写真、用語説明の取扱い等について、審議が行われた。第6回検討会の議事骨子は以下のようである。

1. 「熊野川河川整備計画の策定に向けて」の内容について

審議の結果、以下の内容が確認された。

「Ⅰ. はじめに」「Ⅴ. まとめ」について

- ・ 意見集の内容を踏まえた上で、次回懇談会までに作成する。

「Ⅱ. 流域の概要」について

- ・ 人口については、平成17年の流域内人口を記載する。
- ・ 「近代においては」は、「近世以降は」とすること。「上皇」は「皇族、貴族」に改める。
- ・ 十津川大水害の記述が2箇所あるので、最初には名称だけとし、水害の所で内容を説明する。
- ・ 熊野川は紀伊半島の隆起により形成された典型的な洗掘蛇行河川なので、この点を記載してほしい。
- ・ 地震の発生確率が「50~60%程度で」とあるが、「50%程度で」に修正する。

「Ⅲ. 流域の現状と課題」について

- ・ グループ会議、電源開発株による指摘事項等に対し、資料提示のとおり修正する。
- ・ 4.1現状 1) 地域振興 において、「10箇所の水力発電所」とあるが、「11箇所の発電利水ダム」に修正する。
- ・ 4.2課題 2) 歴史・文化③資産の保全と復元 において、木材・木炭などが熊野川を利用して運ばれた記述があるが、近代には鉱石も運ばれた歴史があるので記載する。

「Ⅳ. 整備計画の策定に向けて」について

1. 熊野川のあるべき姿と目指すべき方向について

- ・ 「直轄区間の整備計画への意見を述べる」という本章の目的を記載すること。また、整備に当たっては上下流の連携が重要である旨記載する。
- ・ 「2. 実現のための目指すべき方向について」は、課題項目のみの記述となっているので、文章にまとめ、記載する。
- ・ 治水の目指すべき方向の内容が具体的過ぎるので、「洪水に強い熊野川の実現を図る」「地震(津波)に強い熊野川の実現を図る」とする。

2. 整備計画原案策定における留意点

- ・ 「(1)治水における留意点」において、宝永地震の記載箇所には発生年を入れる。
- ・ 「(2)利水における留意点」において、外材の輸入に伴い製紙業が衰退した旨の記述があるが、原因は産業構造の変化が主な理由と考えられるので、削除する。
- ・ 「(3)自然環境における留意点」において、濁水の発生源の記述内容に、山林の荒廃(間伐等がなされず放置された人工林)を追加する。
- ・ 「(3)自然環境における留意点」において、濁水を含めた土砂環境のあり方の検討を追加する。

2. タイトル、キャッチフレーズについて

第7回熊野川懇談会で決定された意見集のタイトル「熊野川河川整備計画の策定に向けて」が、とりまとめられた内容にそぐわないとの指摘があり、タイトルの見直しが行われた。審議の結果、以下のタイトルに変更され、また、委員の投票の結果、以下のサブタイトル(キャッチフレーズ)が決定された。

タイトル:「明日の熊野川整備のあり方」 サブタイトル:「癒しと活力の源、聖なる熊野川」

3. 図表、写真、用語説明について

審議の結果、以下の内容が確認された。

- ・ 本文に掲載する図表(巻末資料)、写真、用語説明については、庶務が案を提示し、委員の要望を確認して掲載内容を決定する。
- ・ 写真、図表については、出来るだけ説明文の横に添付し、番号は付けない。

4. 今後の進め方について

審議の結果、以下の内容が確認された。

- ・ 次回懇談会前に内容を確認するため、検討会を開催する。
- ・ 第9回懇談会のシンポジウムについては、委員からの意見を踏まえ、内容について運営会議等で再度検討を行う。